

- 1 五條市の現状について**
- 2 アンケート調査の実施について**
- 3 課題と対応に向けた基本方針について**
- 4 計画策定に向けた今後のスケジュールについて**

次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

1 五條市の現状について

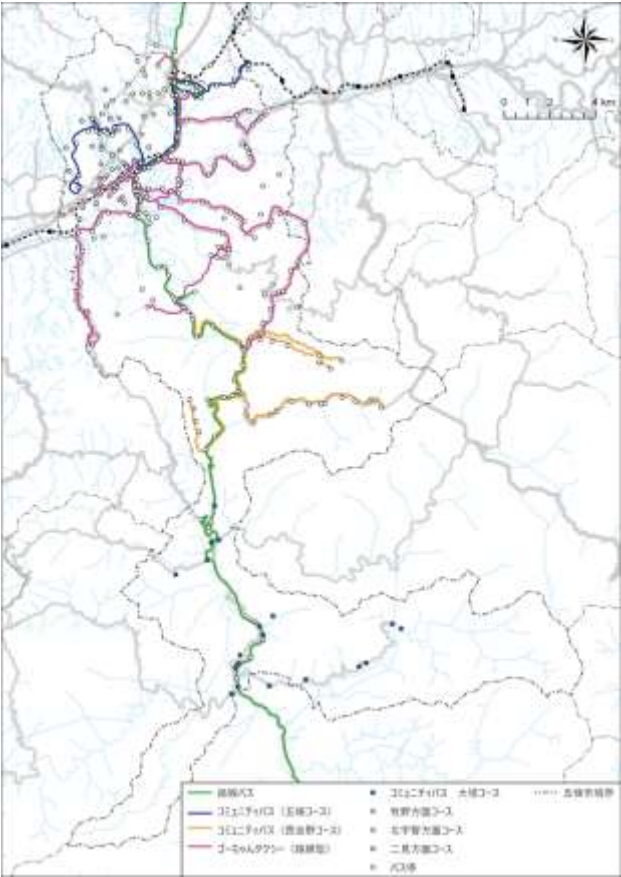
【人口推移】

各年次4月末（単位：人）					
項目	年	五條地区	西吉野地区	大塔地区	五條市計
人口	平成23年	31,676	3,260	471	35,407
	平成24年	31,209	3,146	424	34,779
	平成25年	30,807	3,028	409	34,244
	平成26年	30,232	2,932	377	33,541
	平成27年	29,716	2,834	331	32,881
	平成28年	29,276	2,703	309	32,288
	平成29年	28,749	2,623	287	31,659
	平成30年	28,305	2,506	276	31,087
	平成31年	27,843	2,406	255	30,504
	令和2年	27,236	2,344	248	29,828
	令和3年	26,617	2,255	243	29,115
	令和4年	26,070	2,175	220	28,465
	令和5年	25,528	2,103	201	27,832
	令和6年	25,063	2,032	196	27,291
	令和7年	24,546	1,964	179	26,689
	令和8年	24,039	1,884	174	26,097
推移	対15年前 （平成23年比）	0.76	0.58	0.37	0.74
	対10年前 （平成28年比）	0.82	0.70	0.56	0.81
	対5年前 （令和3年比）	0.90	0.84	0.72	0.90

※五條地区：五條地区～南阿太地区の10地区計

- 五條市全体の人口は、令和8年4月現在で26,097人
- 15年前からの人口推移をみると、人口減少が続いており、
対15年前（平成23年比）で0.74（26%減）、
対5年前（令和3年比）でも0.90（10%減）
- 地区別でみると、大塔地区で人口減少の割合が最も高い。

【公共交通網】



- 地域公共交通サービスの人口カバー率※は91.4%

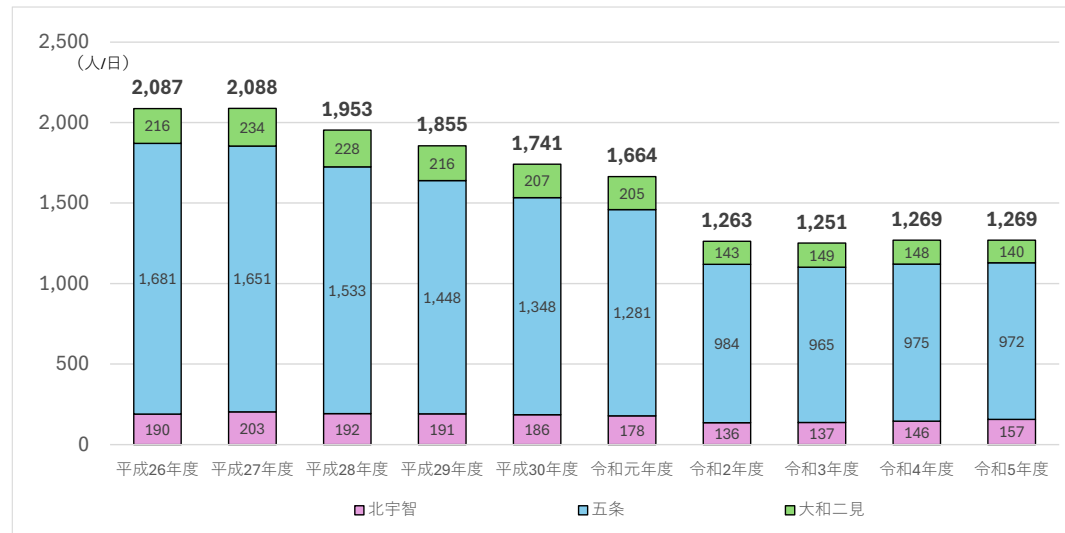
※ 鉄道駅から800mもしくは
バス停等から300m以内に含まれる
人口割合

移動モード	担う役割
鉄道	広域的、大規模な移動の基軸
奈良交通路線バス	橿原市、大和高田市や十津川村など国道幹線の移動
ゴーちゃんバス	人口が多い地区、主要施設を結ぶ2路線に集約
ゴーちゃんタクシー	周辺地域から乗合タクシーで中心市街地へ結ぶ。 （市内タクシー会社が担う）
コミュニティバス （西吉野・大塔地区）	地域の交通結節点で奈良交通 路線バスと接続確保
乗用タクシー	地域内の移動を面的に支える。

次期公共交通計画について

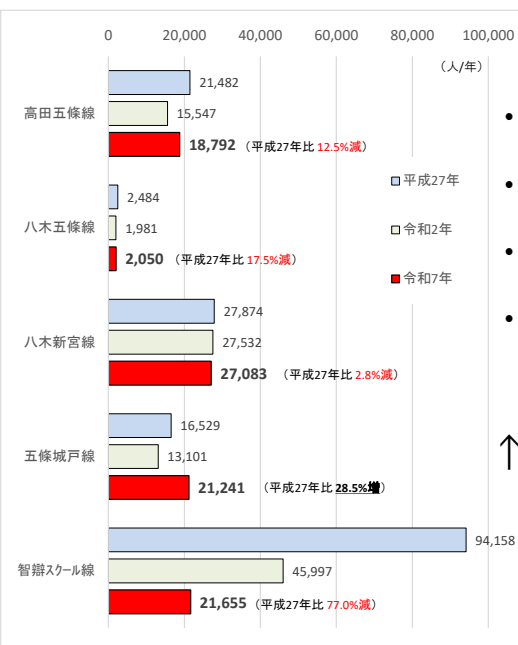
【利用状況】

●鉄道



- ・コロナ禍を境に減少、利用者数は戻っていない

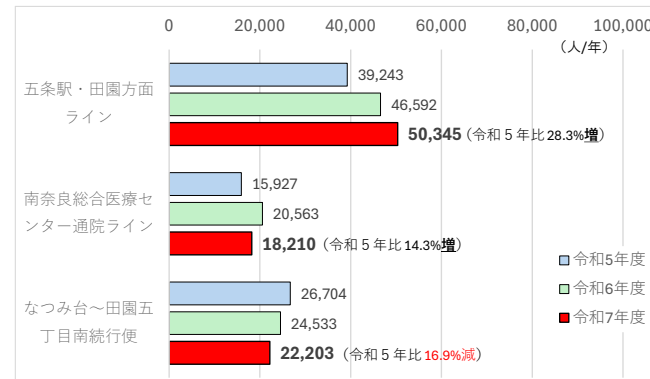
●路線バス



- ・高田五條線・八木五條線は、10%以上の減少
- ・智辯スクール線は77%の減少
- ・八木新宮線は微減傾向
- ・五條城戸線については、平成27年度と比較し、約30%の増加(西吉野農業高校生の利用)
- ↑一方、年間を通して、ほぼ利用されていない区間もある。（西吉野農業高校～城戸間）

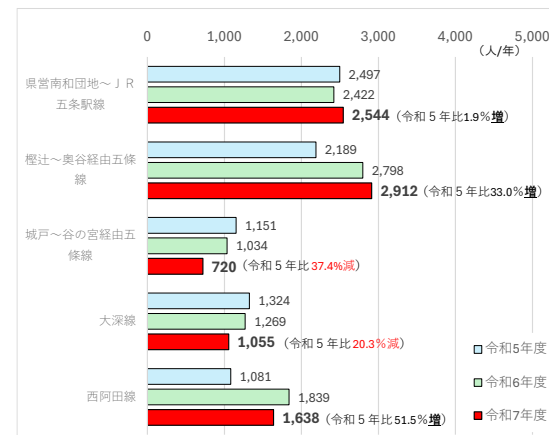
●ゴーちゃんバス

（コミバス五條コース）



- ・五条駅・田園方面ライン、南奈良総合医療センター通院ラインとも増加傾向

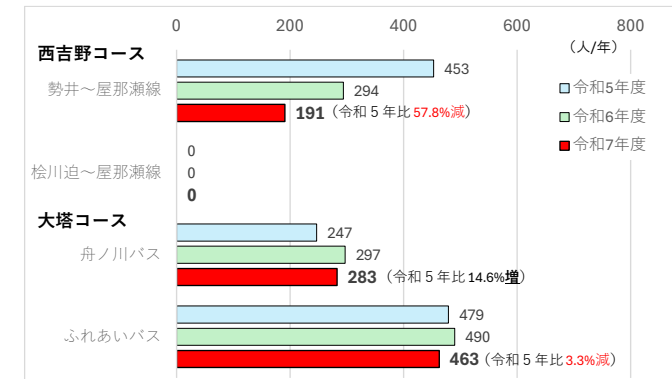
●ゴーちゃんタクシー



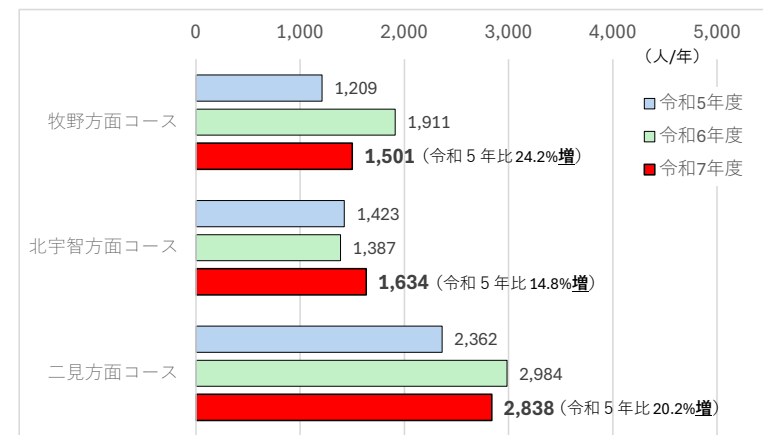
- ・路線型は樫辻線、西阿田線で増加、城戸線、大深線で減少

●コミバス

西吉野コース・大塔コース



- ・特に西吉野コースの減少が著しい
- ・大塔地区は、人口減少が著しいがほぼ横ばいで推移



- ・区域型は3路線とも増加
ただし、R6年度と比較し減少

次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

2 アンケート調査の実施について

利用の現状やニーズ把握のため、以下の2種類のアンケートを実施。

【2－1 市民アンケート】

項目	内容
対象者	市内在住の1,400世帯（1世帯あたり2通を封入） ※ 五條地域：1,050世帯、西吉野地域：280世帯、大塔地域：70世帯
調査方法	郵送配布・郵送回収（WEBによる回答も可能）
抽出方法	住民基本台帳から無作為に抽出
調査期間	令和8年7月17日（金）～7月31日（金）
回収状況	760票（郵送＝513世帯687票、WEB＝73票） 8/4回収時点

※ 以下、速報の集計結果については7/28までに回収された318票を対象

【2－2 JR五条駅の利用者に対するアンケート】

項目	内容
対象者	調査日当日にJR五条駅を利用した方
調査方法	調査方法：現地での調査票の配布（一部、現地での聞き取り）
抽出方法	令和8年7月17日（金）
回収期日	～7月31日（金）
回収状況	174票（郵送＝120票、WEB＝54票） 8/4回収時点

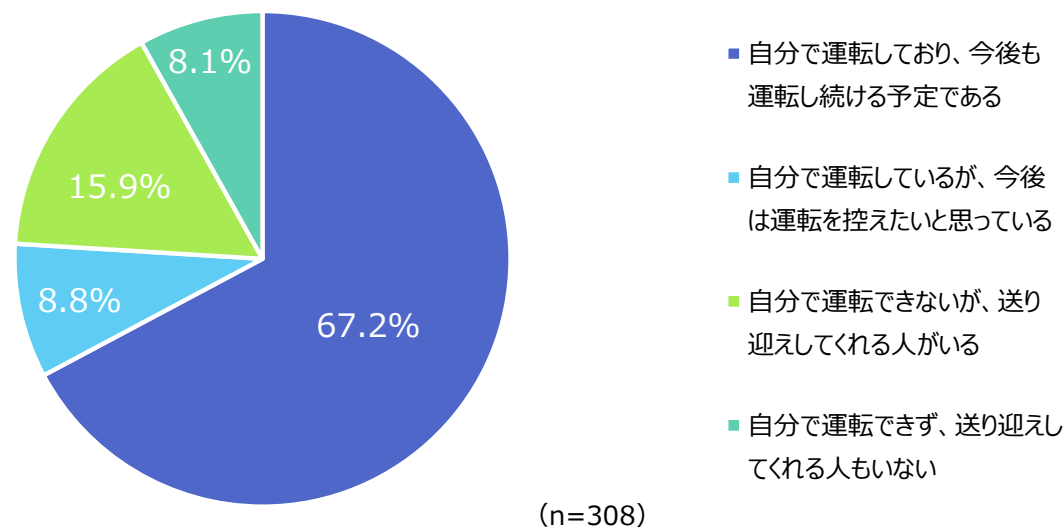
※ 以下、速報の集計結果については7/28までに回収された145票を対象

次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

2-1 市民アンケート結果概要

【クルマの利用状況】

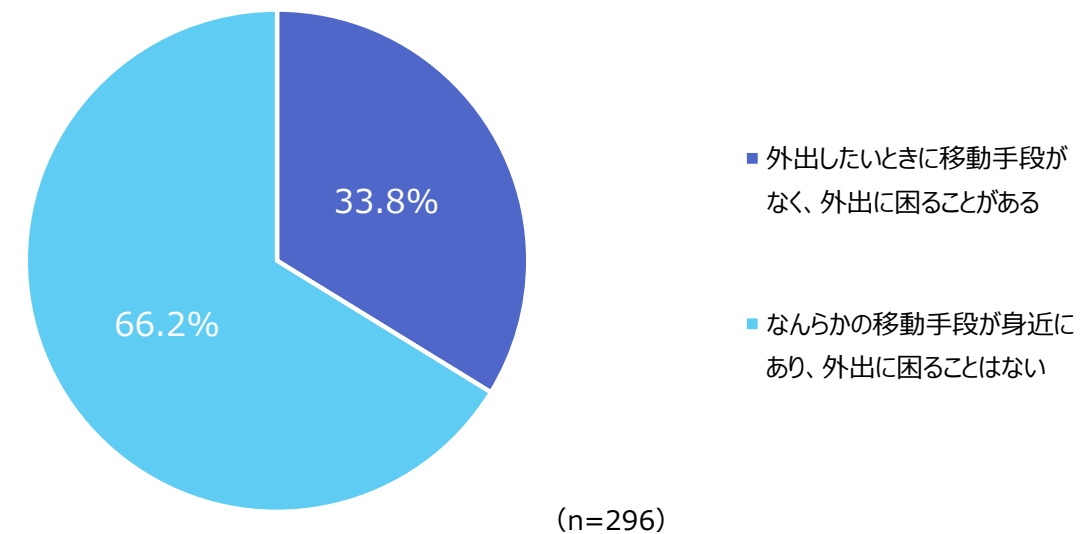
クルマの利用について教えてください。



- 約70%が「自分で運転しており、今後も運転し続ける予定である」と回答
- 一方、10%弱が「自分で運転しているが、今後は運転を控えたい」と思っている。
- また、10%弱が「自分で運転できず、送り迎えしてくれる人もいない」としており、移動に制約を抱えている状況がうかがえる。

【外出のお困りごと】

移動手段（クルマや公共交通など）の利便性が原因で外出に困ることはありますか。



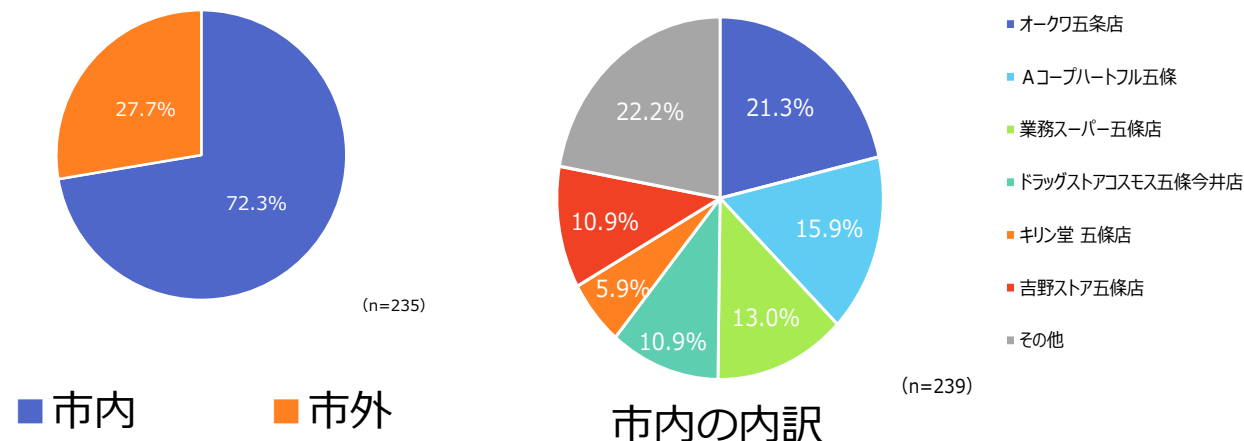
- 約33.8%が「外出したいときに移動手段がなく、外出に困ることがある」と回答

次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

2-1 市民アンケート結果概要

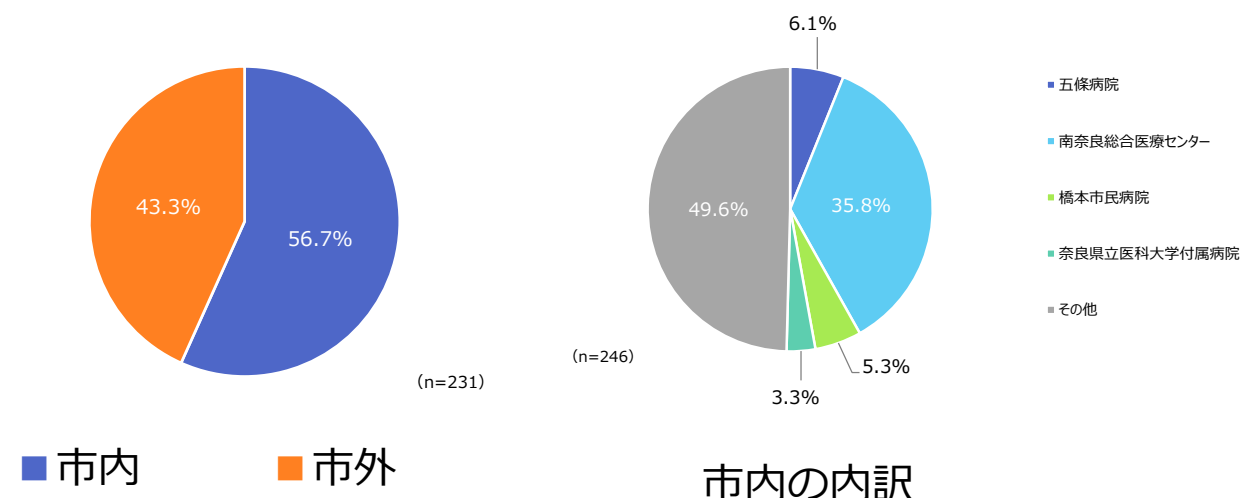
【買い物先】

よく買物に行く店舗について教えてください。

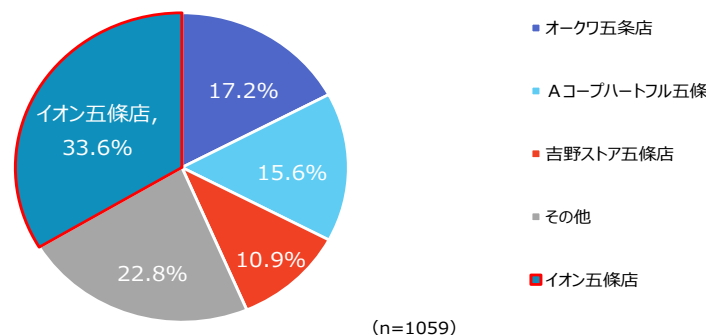


【通院先】

よく通院している医療機関について教えてください。



令和3年に実施したアンケート結果



※ 業務スーパー五條店等は当時、詳細な集計を行っていないため、比較対象外
資料：令和3年度 公共交通に関するアンケート調査（市民アンケート）

- よく行く通院先について、市外も43.3%を占めている。
- また、施設別にみると、南奈良総合医療センターが約35.8%を占めている。

- よく行く買物先について、**市内が約72%、市外が約28%**を占めている。
- 施設別にみると、市内のオークワ、Aコープ、業務スーパーなどが多い。
- なお、令和3年に実施したアンケートではイオン五條店が約33.6%を占めており、令和11年に再オープンした場合は重要な行先になると考えられる。

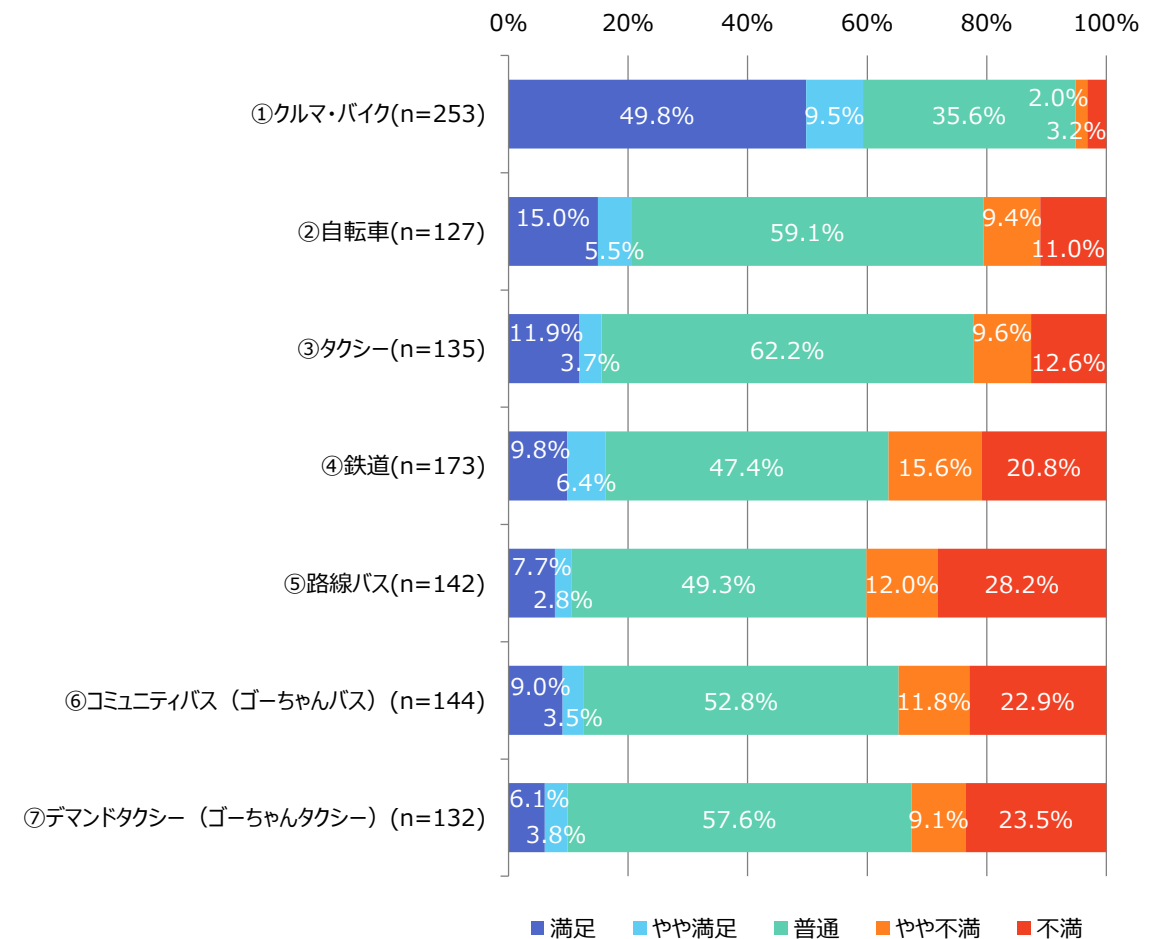
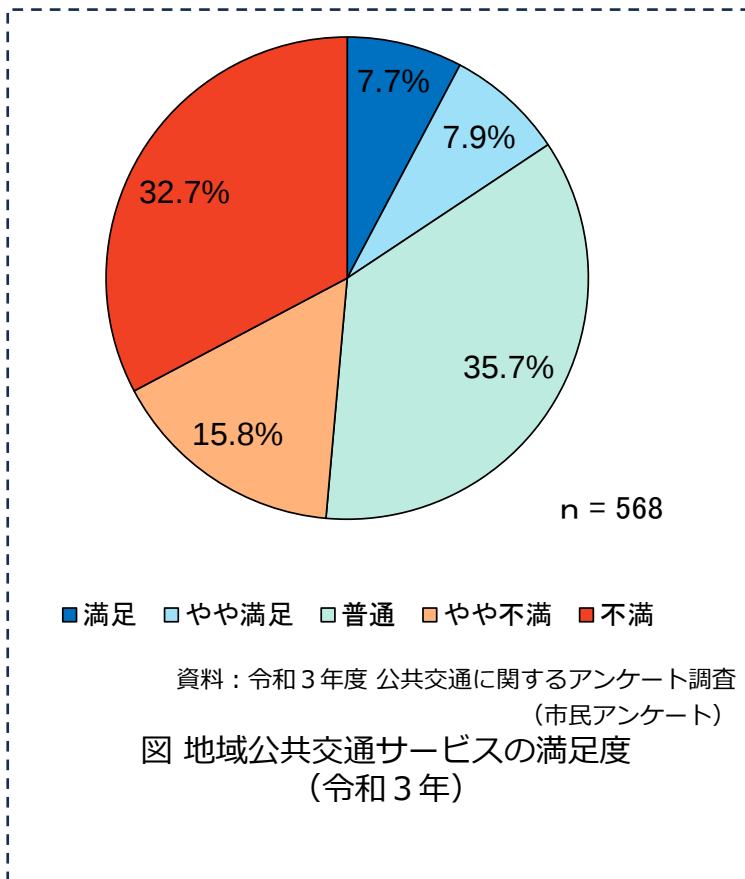
次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

2-1 市民アンケート結果概要

【満足度】

移動手段ごとの満足度について教えてください。

令和3年に実施したアンケート結果



●クルマ・バイクの満足度（満足・やや満足の割合）が高く、地域公共交通サービスの不満（やや不満・不満の割合）が高い

しかし…

※令和3年度のアンケート結果（地域公共交通サービス全体の満足度）に比べ、**不満の割合は低下している**傾向にある。

やや不満・不満に
思う人

R3年度
（全体値） 48.5%



R8年度
（速報値）

40.2%

※最も多い割合（路線バス利用者）
※コミバスやデマンドタクシーは
3割程度になっている

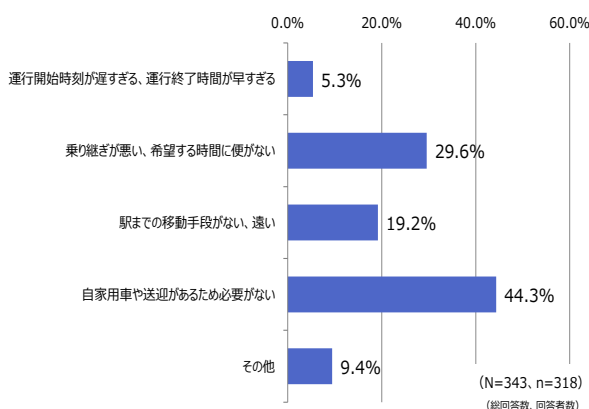
次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

2－1 市民アンケート結果概要

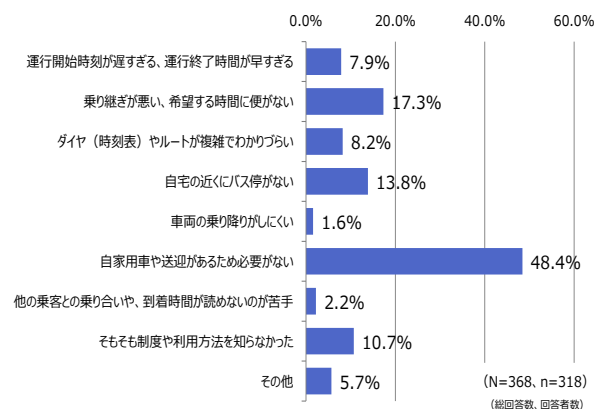
【不満等】

公共交通に対する不満や利用しない理由について、教えてください。

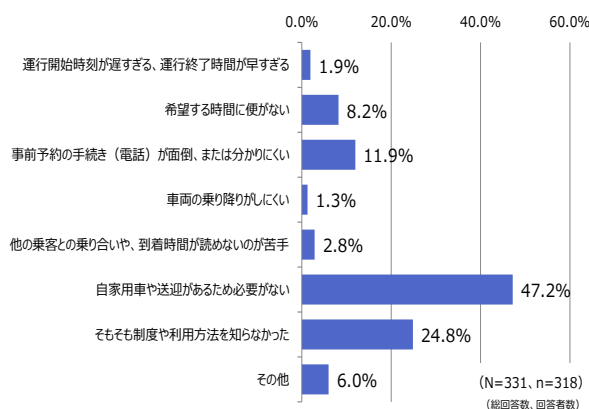
<鉄道>



<路線バス・コミュニティバス>

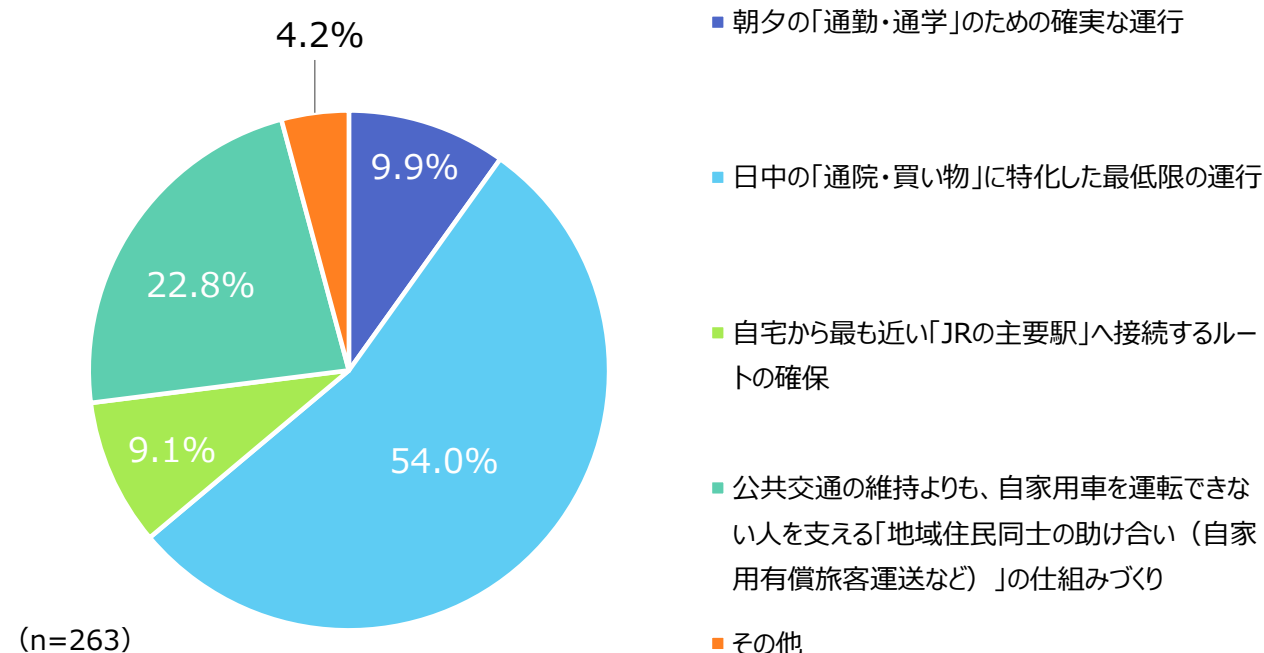


<デマンドタクシー>



【最優先で維持・確保すべき機能】

今後の地域の公共交通において、「これだけは最優先で維持・確保してほしい」と思う機能はどれですか。



- 「日中の「通院・買い物」に特化した最低限の運行」が最も多い（54%）を占めており、通院や買い物を目的とした移動に対するニーズや必要性が今後も高まることがうかがえる。

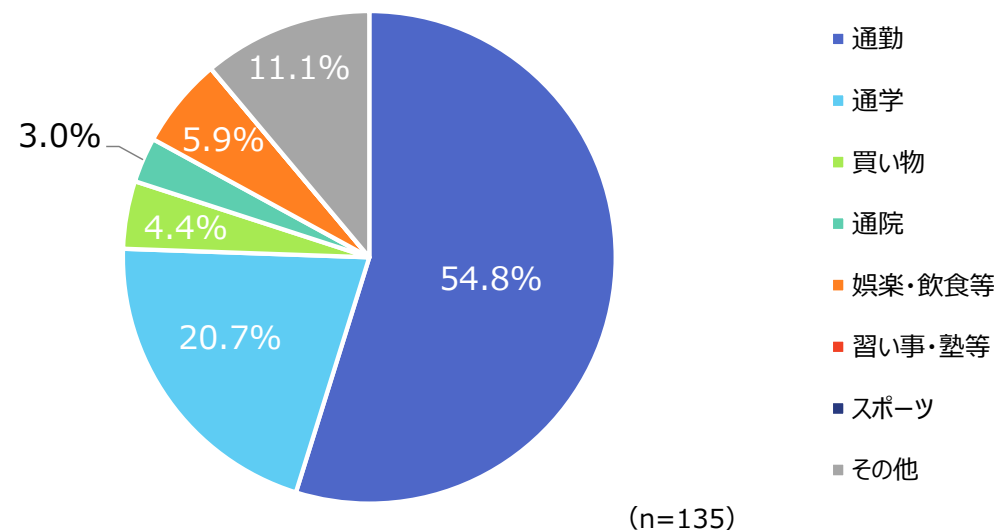
- いずれも「自家用車や送迎があるため必要がない」が最も多い。
- 鉄道や路線バス・コミュニティバスについては、「乗り継ぎが悪い、希望する時間に便がない」も比較的高い割合

次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

2－2 五条駅利用者アンケート結果概要

【目的】

ふだん、五条駅を利用される際の主な移動目的をお教えてください。



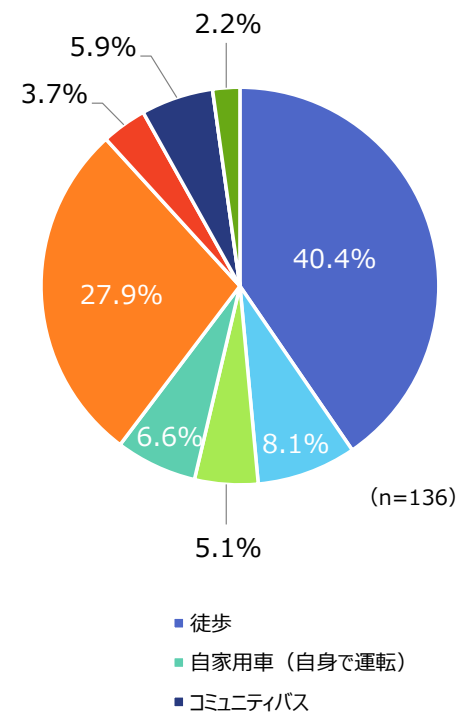
● 通勤が約54.8%、通学が約20.7%を占めている。

全体の75%

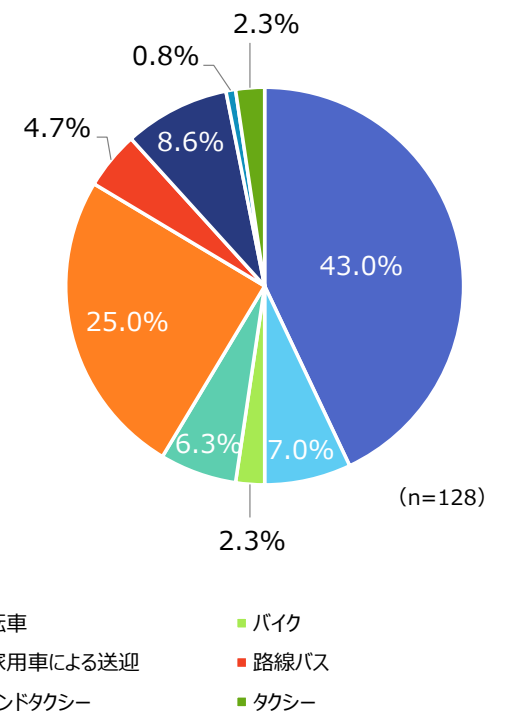
【駅までの移動手段】

ふだん、五条駅を利用される際の移動手段についてお教えてください。

●五条駅に到着して、電車に乗るとき



●電車を降りて、五条駅から出発するとき



● 徒歩が4割以上を占める

● 続いて、自家用車による送迎の割合が25%以上となっている。

● 路線バスやコミュニティバスなどの

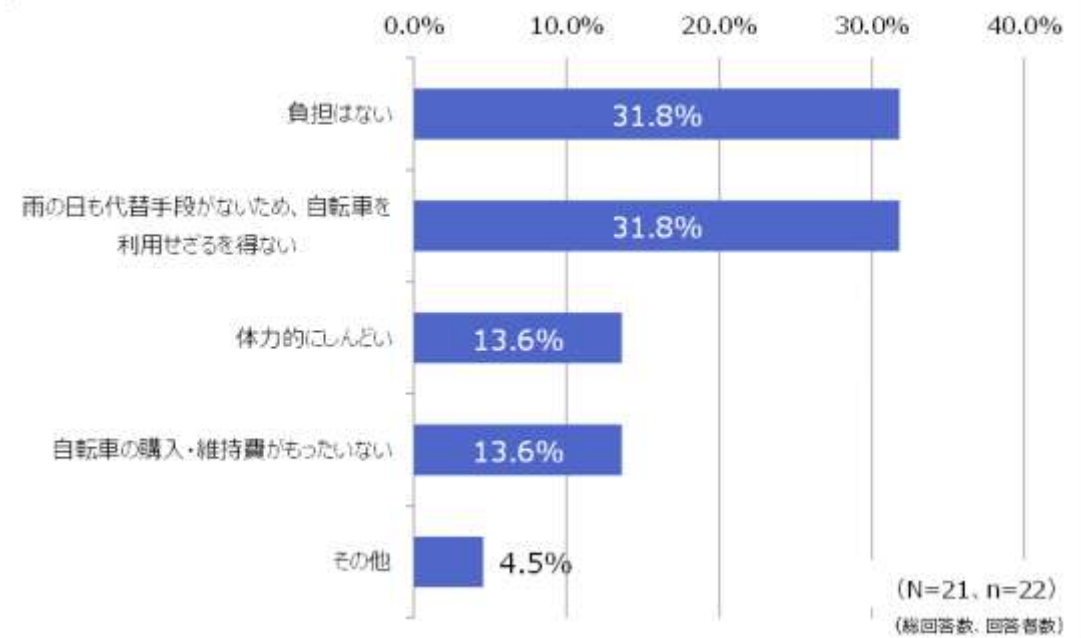
地域公共交通サービスの利用割合は約1割

次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

2－2 五条駅利用者アンケート結果概要

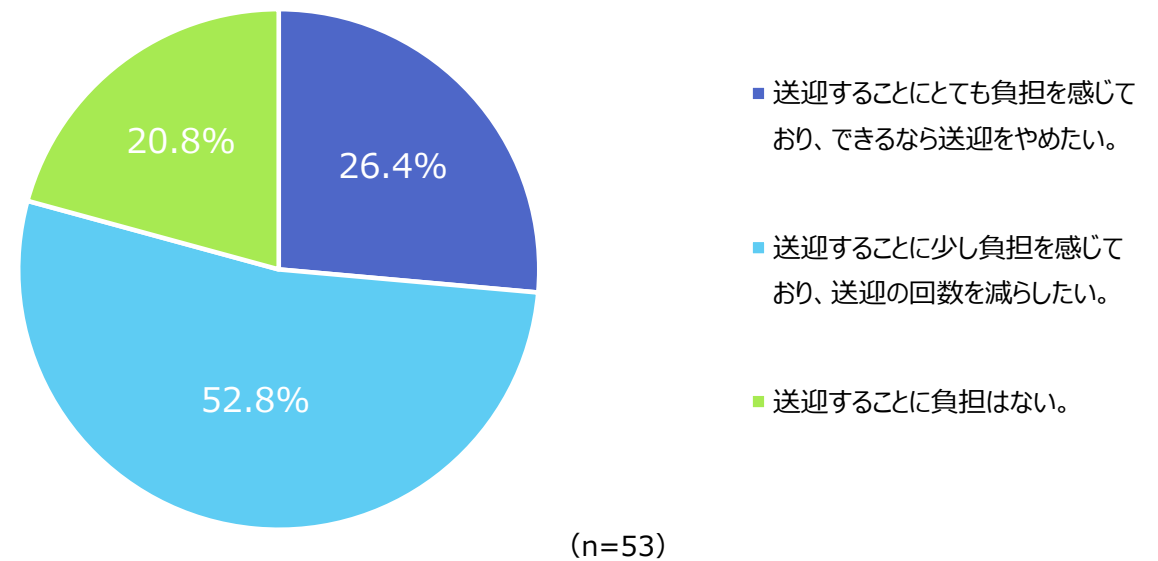
【自転車移動の人の負担】

自転車を利用される際の負担感について、教えてください
【○はいくつでも】



【送迎する人の負担】

ふだん、あなたを送迎（自動車を運転）している方のお考えとして、
あてはまるものをお教えてください。



- 五条駅を利用する際の自転車利用について、
日常的には「負担はない」とする回答者が3割以上となっている。
- 一方、「雨の日も代替手段がないため、自転車を利用せざるを得ない」ことを負担に感じている利用者也**3割以上**となっている。

- 五条駅を利用する際、自家用車による送迎を利用する
回答者について、**「送迎することにより、送迎の回数を減らしたい」と考えている回答者が約52.8%**
となっている。

次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

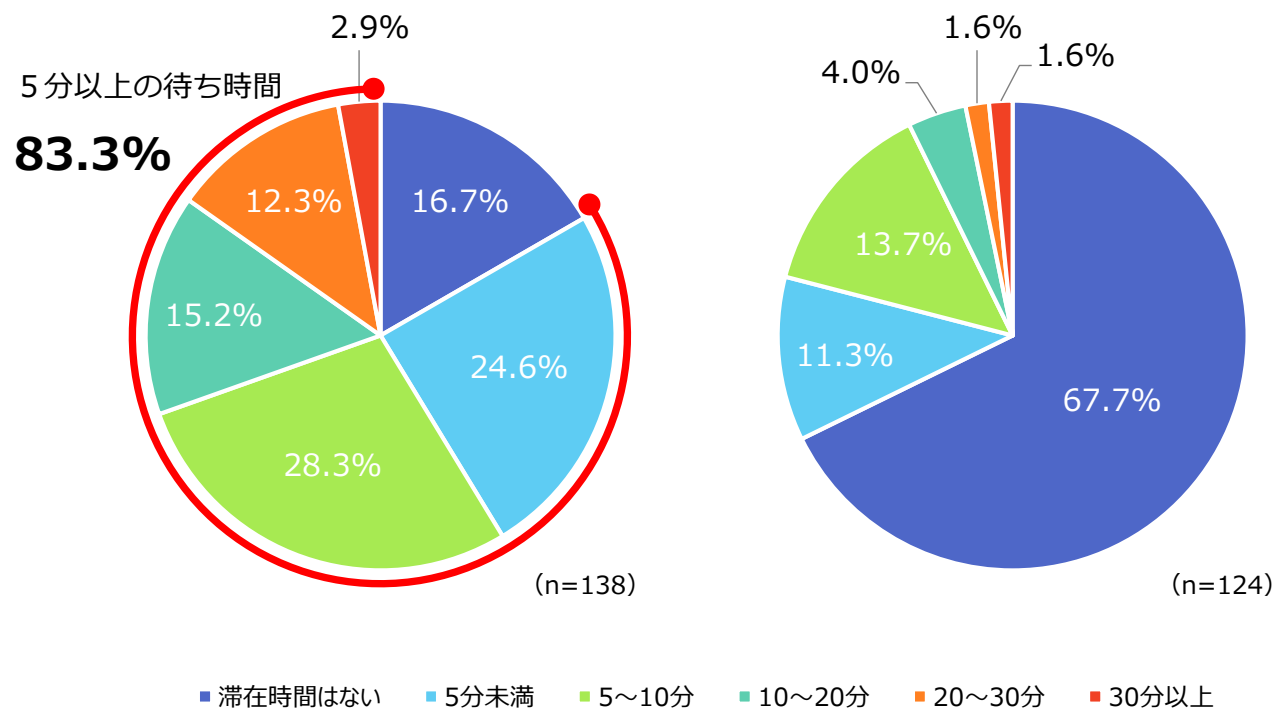
2-2 五条駅利用者アンケート結果概要

【JR五条駅での待ち時間】

ふだん、五条駅を利用される際の、五条駅での待ち時間について教えてください。

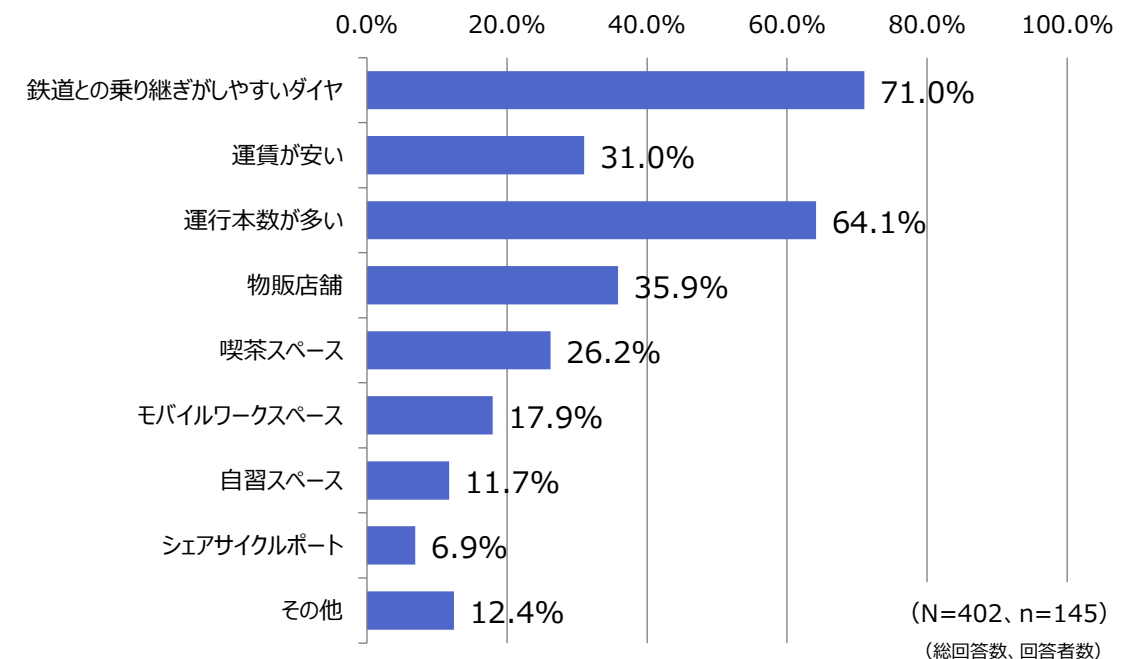
●五条駅に到着して、電車に乗るとき

●電車を降りて、五条駅から出発するとき



【駅周辺への期待】

五条駅やバスターミナル、その周辺について、どのような機能があれば利用したいと思いますか。【○はいくつでも】



- 電車を降りて駅から出発するときは「滞在時間はない」とする利用者が約67.7%となっています。
- それに対し、電車に乗るときは5分以上の待ち時間が発生している利用者が約8割となっています。

- JR五条駅やその周辺への期待することについて、「鉄道との乗り継ぎがしやすいダイヤ」や「運行本数が多い」などのアクセス性の向上を求める意見が多い。
- そのほか「物販店舗」や「喫茶スペース」、「モバイルワークスペース」への期待もみられる。

次期公共交通計画について

3 課題と対応に向けた基本方針について

課題の背景となる現状 「市民生活の視点」

（１）クルマへの依存したライフスタイルとなっている。

- 市民の約 6 割が「週 4 日以上」自家用車（クルマやバイク）を利用した生活を送っており、地域公共交通に比べ、圧倒的に高い割合になっている。

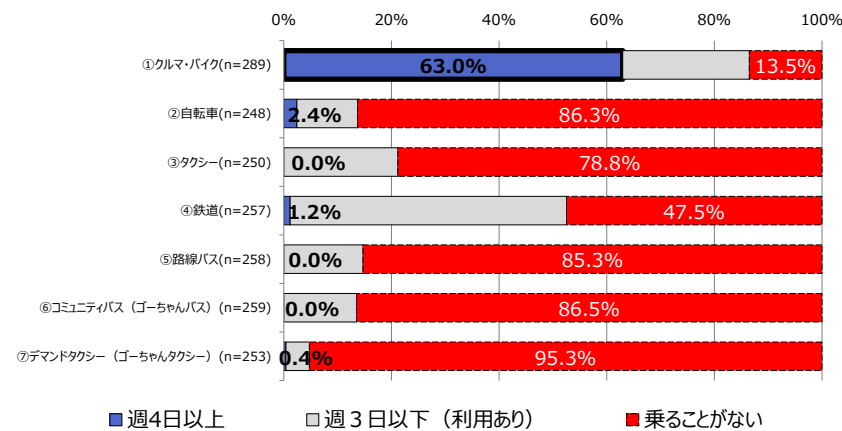


図 各移動手段の利用頻度

（２）公共交通に対する認知度が低い。

- コミュニティバスやデマンドタクシーでは、7 割以上の方が、サービスそのものや、行先及び時刻とも知らない状況となっている。

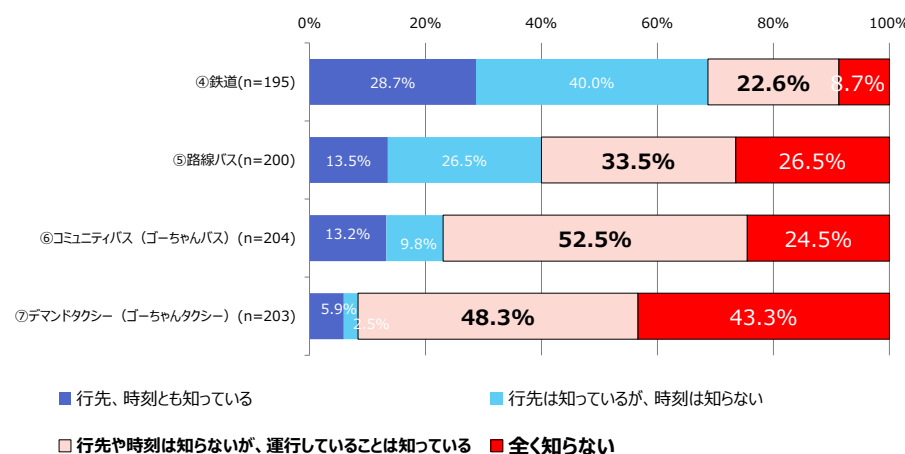


図 公共交通に対する認知度

（３）各地区でニーズが異なる。

- 医療機関や商業施設など、各地区でその利用先が異なる状況となっている。

（４）地域公共交通の軸となる鉄道サービスの低下が危惧される。

高田～五条間の平均通過人員※をみると、コロナ前の平成30年度に比べ、約10%減少している。

表 JR和歌山線（高田～五条間）の平均通過人員

	平均通過人員（輸送密度）
平成30年度	2,501
令和 5 年度	2,153
令和 6 年度	2,220
令和 7 年度	2,265

資料：JR西日本HP

※ 1 日 1 k mあたりの利用人数。JR西日本では平均通過人員2,000人/日未満の線区をローカル線の改善・見直し対象として公表している。

（５）将来的には公共交通に対するニーズが高くなる。

- 市民の約33.8%が「外出したいときに移動手段がなく、外出に困ることがある」と回答している。
- さらに、6 割以上の市民が、日常の買い物や通院に対する移動に 不安を抱いている

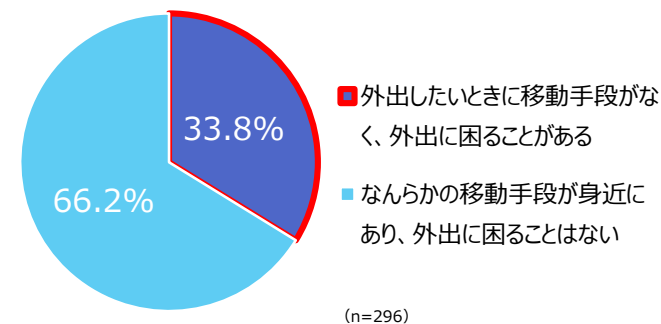


図 移動手段の利便性が原因による外出の困難

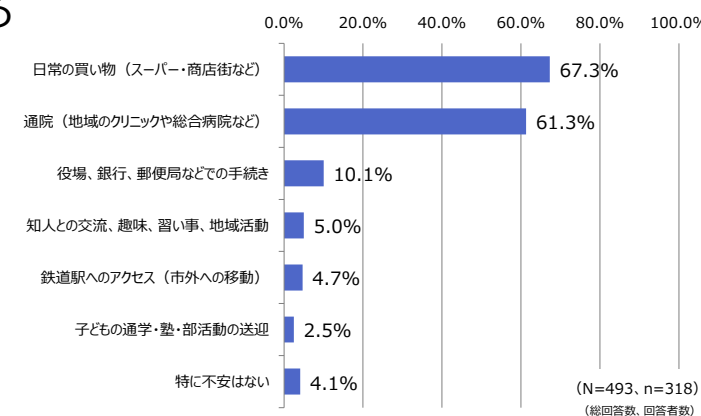


図 将来、不安を感じる移動目的

※ 本ページで示すアンケート結果：公共交通に関するアンケート調査（市民アンケート）
※7/28回収時点のもの

次期公共交通計画について

3 課題と対応に向けた基本方針について

課題の背景となる現状 「社会環境の視点」

（６）高齢化とともに、人口が急速に減少している。

- 全体の人口は、令和 8 年 4 月現在で**26,097人**となっており、15年前（平成23年）との比較で26%減、5 年前（令和 3 年）との比較でも10%減となっている。
- 年齢別人口をみると、老年人口（65歳以上）は4割を上回っている。さらに、西吉野地区や大塔地区の老年人口割合が高く、西吉野地区では54.6%、大塔地区では66.9%となっている。

項目	年	五條地区	西吉野地区	大塔地区	五條市計
人 口	平成23年	31,676	3,260	471	35,407
	平成28年	29,276	2,703	309	32,288
	令和3年	26,617	2,455	243	29,115
	令和8年	24,039	1,884	174	26,097
推 移	対 15年前 (平成23年比)	0.76	0.58	0.37	0.74
	対 10年前 (平成28年比)	0.82	0.70	0.56	0.81
	対 5年前 (令和 3 年比)	0.90	0.84	0.72	0.90

図 地区別の人口推移：五條地区～南阿太地区の10地区計

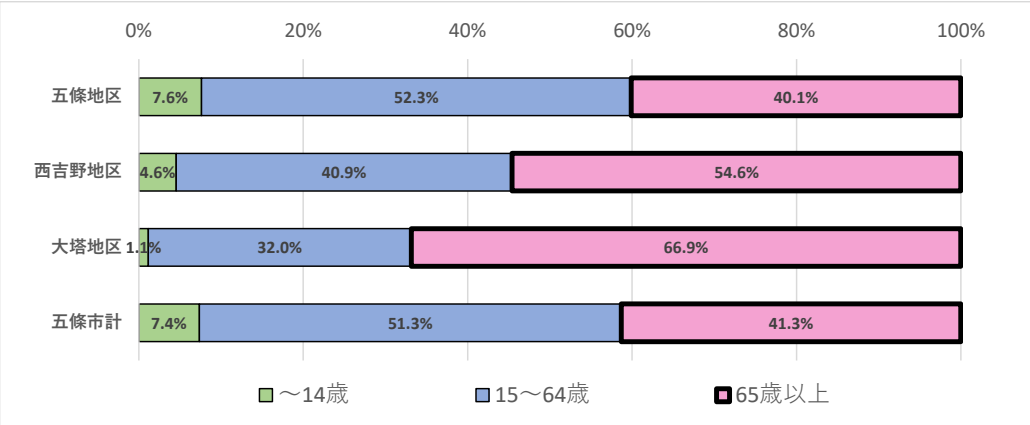


図 地区別の年齢構成割合

（７）地域公共交通への支出が大きな負担となってきた。

- 地域公共交通の運営については、サービスの見直し、人件費ならびに燃料費の高騰を背景に、委託費が上昇している。

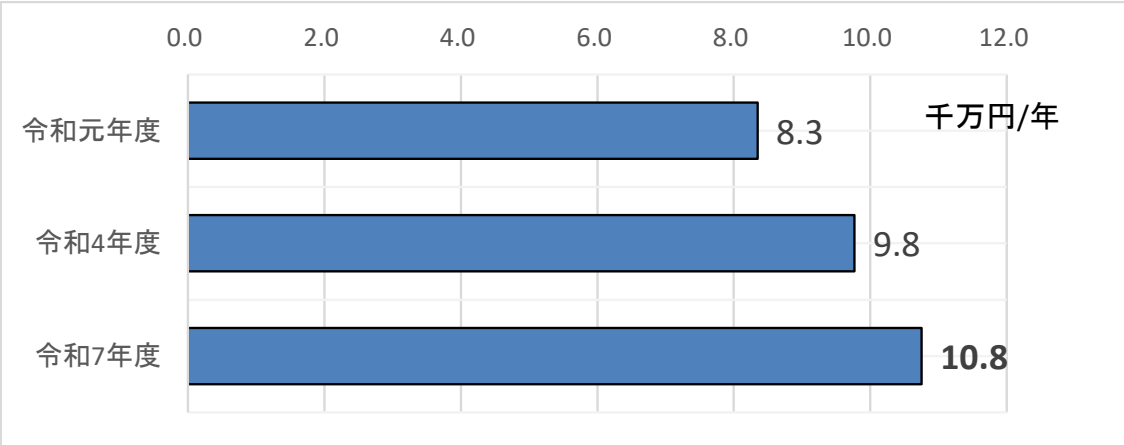


図 市営公共交通の運行経費の推移

（８）地域公共交通の担い手が不足している。

- 五條市内で運行される交通事業者に関わらず、恒常的に
- 担い手不足が続き、深刻さが増していることが報告されている。



図 奈良交通運転者の配置人数、採用状況

次期公共交通計画について

3 課題と対応に向けた基本方針について

【地域公共交通を取り巻く“市民生活”の視点】

(1) クルマへの依存したライフスタイルとなっている。

(2) 公共交通に対する認知度が低い。

(3) 各地区でニーズが異なる。

(4) 地域公共交通の軸となる鉄道サービスの低下が危惧される。

(5) 将来的には公共交通に対するニーズが高くなる。

【地域公共交通を取り巻く“社会環境”の視点】

(6) 高齢化とともに、人口が急速に減少している。

(7) 地域公共交通への支出が大きな負担となってきた。

(8) 地域公共交通の担い手が不足している。

【地域公共交通計画で向き合うべき課題とその対応方針】

I 地域ニーズへの対応

- ・ 差が大きくなっている **地区ごとの人口構造、移動特性に応じた適切な輸送形態**（定時定路線orデマンド型、路線型or区域型）等を定めていく。

II 社会情勢への対応

- ・ より進行している高齢化（交通弱者の増加）を見据え、福祉的な視点も含みながら、**地域に寄り添った移動サービス**のあり方を示す。

III 生活を支えるインフラとしての対応

- ・ 移動の可否によって、市民の日常生活が困難になることを防ぐため、**市民のライフスタイルと向き合った移動サービス**のあり方を示す。

IV 定住や交流の促進の支援

- ・ 人口減少が進む中でも、**安心して進み続けられる地域づくり**が重要であり、移動手段の不足が原因で移住が必要となったり、交流が抑制されることがない移動サービスを確保する。

V 地域公共交通に関する認知・理解の醸成

- ・ 他分野との連携を強化しながら、全市的に取り組むにあたり、市民の理解に対する必要性は一層高まることから、より **認知・理解の醸成**を進める。

VI 適切なコスト負担と役割分担

- ・ 行政、民間ともに地域公共交通の経営環境が厳しさを増す一方、地域の課題として、地域公共交通の役割が増す中では、コスト負担の抑制だけでなく、**適切なコスト負担と役割分担**を定める。

VII 地域公共交通の担い手の確保

- ・ 持続可能なサービスの提供のためには、**担い手を安定して確保する仕組みづくり**を行う。

次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

3 課題と対応に向けた基本方針について

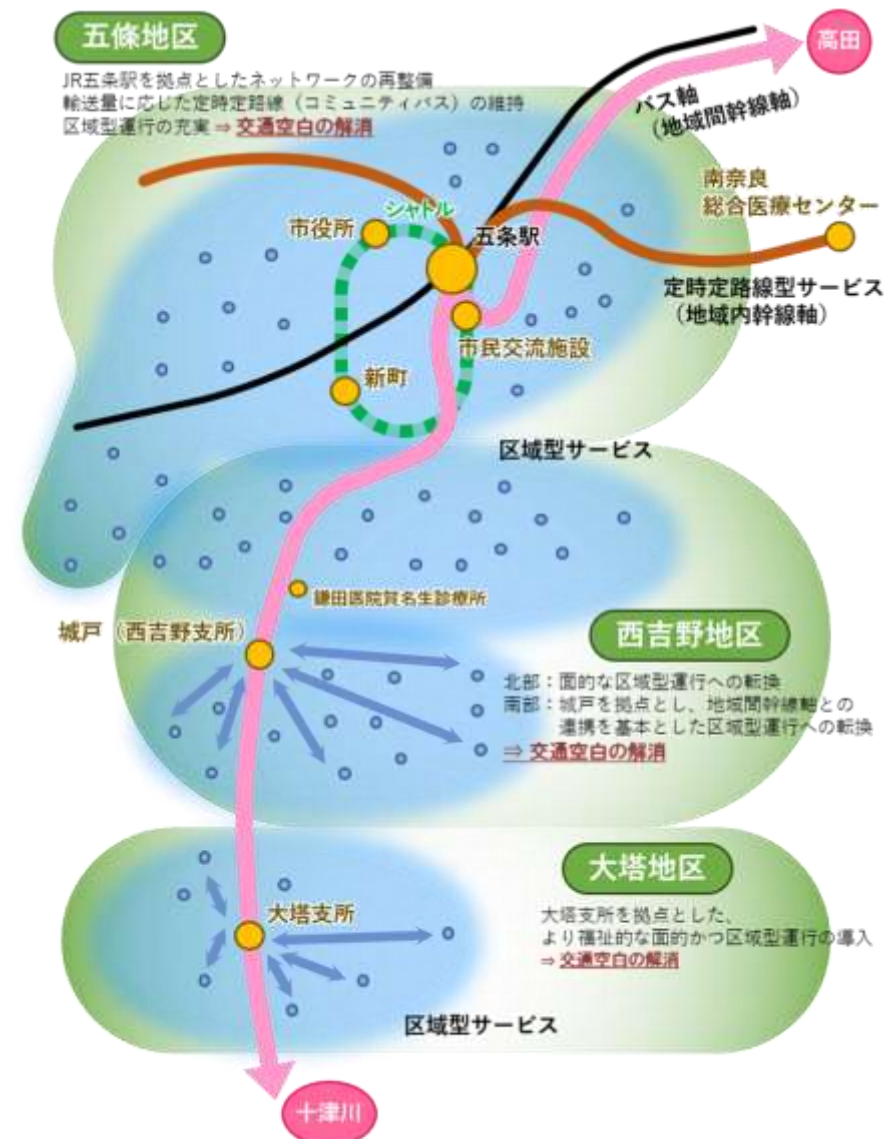
【目指すべき姿】

- ・ 鉄道や民間路線バス等からなる「地域間幹線軸」、ゴーちゃんバスなどのコミュニティバスからなる「地域内幹線軸」、ゴーちゃんタクシーを中心とした「支線」、さらには面的な補完サービスとして「タクシー」によって、**階層的に構成されるものとして、それぞれの役割と主体を定めながら検討を深めます。**
- ・ 地区ごとの特徴を考慮しながら、これまでの公共交通の枠組み（サービスの考え方）にとらわれず、交通空白の解消を考慮したミーティングポイントtoミーティングポイント型（区域型）のサービスの導入など、**輸送量や地域のニーズに応じたサービスの導入を視野に入れた施策検討を行うものとしします。**

【交通軸と目標とする姿】

区分	該当する手段	目標とする姿
地域間幹線軸	・ JR和歌山線 ・ 奈良交通（広域） ・ 広域通院ライン	既存サービスの維持 拠点としての <u>JR五条駅の存在感向上</u>
地域内幹線軸	・ 奈良交通（市内） ・ コミュニティバス（ゴーちゃんバス等）	基本的なサービスの維持 →民間及び行政間での役割分担による、 <u>より効率化された持続的なサービスの構築</u>
支線	デマンド型サービス	<u>交通空白の解消</u> を実現する 区域型運行
面的サービス	タクシー	サービスの維持

【目標とする地域公共交通ネットワークイメージ】



次期五條市地域公共交通計画（案）の進捗について

4 計画策定に向けた今後のスケジュールについて

事業内容	R8年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
事業者選定		事業者選定	済									
現状の把握 現状を踏まえた 課題の提示			既存データの利用 事業者ヒアリング 住民アンケート等	済								
次期計画の基本 方針の策定				各種分析を 踏まえ策定								
次期計画の 目標値の設定						各種分析を 踏まえ策定						
利便増進事業の 具体案の作成						各種分析を 踏まえ策定						
利便増進事業認 定に向けた調整						国・交通事業者等との 調整						
パブリックコメ ントの実施									HPで 意見募集			
地域公共交通 会議での承認									素案を基に 最終決定			
市議会への報告									素案 報告			確定 報告



計画に関する各種進捗を書面で報告し、目標値の設定等、委員各位にはご意見等をいただく機会を設けることを計画しています。